

水稻・大豆 栽培情報 8月号②

令和5年8月28日

JA みづま

久留米普及指導センター

【水稻】

1. 生育概況

断続的な降雨により初期生育は軟弱徒長傾向で生育しましたが、7月中旬以降は晴天が続いたことで生育は回復しました。出穂期は平年並みの見込みとなっています。

出穂期前後7日間（穂ばらみ～開花期）は水が切れないようにし、開花期以降は間断かん水を徹底し、根の活力維持に努めましょう。

2. 病虫害防除

現在のところ、いもち病、紋枯れ病、トビイロウンカの発生は少ないです。ただし、トビイロウンカについては、9月以降に急激に増殖することもありますので、圃場の観察をよく行いましょう。

☆下記の基幹防除の徹底と、病虫害の発生状況に応じて補正防除を行いましょう。

品種	適用病虫害	散布時期（予想）	使用する農薬と量（10a当り）	使用時期 収穫前日数
夢一献 ヒノヒカリ	カメシ類 トビイロウンカ コブノメガ	8月28～31日	トレボン粉剤 DL 4kg	7日前まで
			トレボン乳剤 1,000倍 (カメシ類は2,000倍)	14日前まで
ヒヨクモチ	いもち病 カメシ類 トビイロウンカ コブノメガ	9月6～10日 ※ダブルカットトレボン フロアブルは穂揃期まで	ビームトレボン粉剤 5DL 4kg	7日前まで
			ダブルカットトレボンフロアブル 1,000倍※	穂揃期まで
※補正防除 (全品種共通)	トビイロウンカ カメシ類	多発時に散布	アルバリン粉剤 DL 3kg	7日前まで
			スタークルメイト液剤 10 1,000倍	7日前まで

※カメシ防除の目安：穂揃い期（7～8割が出穂）。多い場合はその7～10日後に補正防除。

※液剤を使用する際の散布水量は、10a当たり100リットルです。

※ウンカ類への効果を高めるため、防除作業は湛水状態で行います。



稲の株元に生息しているトビイロウンカの様子

トビイロウンカの要防除水準（中老齢幼虫の合計数）

7/3を主要飛来とすると…

・飛来後第三世代幼虫：

100株あたり 1000頭以上（9月中旬頃）

※稲の株元に生息しているウンカを確認し、

補正防除の目安としてください。

【大豆】

1. 生育概況

播種が例年に比べて遅くなったため、全体的に生育量はやや少ない状況です。播種時期（7月中旬と7月下旬播種）により、生育に差があるため、圃場の状況をよく観察し、適期作業に努めましょう。

2. 病害虫防除

①「ハスモンヨトウ」対策

・ハスモンヨトウの発生は現在のところ少ない状況ですが、ハスモンヨトウのふ化幼虫が群集している白変葉があれば早めに手取りで除去する。白変葉が目立ってきたら、下記の薬剤で一斉防除を行ってください。

ハスモンヨトウの幼虫体長が2cm位までが防除適期です。



ハスモンヨトウの幼虫



白変葉

防除時期	対象	剤型	農薬名	希釈倍数	希釈水量 (10a 当たり)
8月下旬 ～9月上旬	ハスモン ヨトウ	液剤	ノーモルト乳剤	2,000倍	100～300リットル
			プレバゾンフロアブル5	4,000倍	100～300リットル
			ペガサスフロアブル	2,000～4,000倍	100～300リットル
		粉剤	トレボン粉剤 DL	4kg	-

②「カメムシ、紫斑病、ハスモンヨトウ」対策（3種混合防除）

・カメムシの発生状況に合わせて開花後30日頃に紫斑病、ハスモンヨトウと合わせて必ず防除を行いましょう。

散布時期（目安）	対象 病害虫	使用する農薬と希釈倍数 ※希釈水量は10a 当り 100～300L		使用時期 収穫前日数
【7/16～20播種】 9/23～25頃	ハスモン ヨトウ	3種 混合	プレバゾンフロアブル5 4,000倍	7日前まで
	カメムシ類		アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍	7日前まで
【7/21～30播種】 9/26～30頃	紫斑病		トップジンM水和剤 1,000～1,500倍	14日前まで

③「カメムシ対策」 *補正防除

・生育が早い圃場（7月中旬播種）を中心に、カメムシ類が多い場合は3種混合防除の7～10日後頃を目安に補正防除を行う。

散布時期（目安）	対象病害虫	使用する農薬と希釈倍数 ※希釈水量は10a当り100～300L	使用時期 収穫前日数
【7月中旬播種】 10月1日 ～10月5日	カメムシ類	アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍	7日前まで

3. 排水対策・過乾燥対策

○大雨による停滞水は、大豆の根痛みや青立ち株発生の要因となるので、出来るだけ早くほ場外に排出するよう、畦溝や排水溝の整備を行いましょう。

○大豆は、開花始め（8月下旬）から莢実の伸長肥大期（9月下旬）までが、乾燥に最も弱い時期です。この時期の乾燥対策を実施しましょう。

- ・しばらく降雨がないと予想される場合は早めに本暗渠の栓を閉めておく。
（大雨が予想される場合は、事前に暗渠栓を開けるなど臨機応変に対応する。）
- ・畝間かん水のタイミングは、晴天が7日位続き、畝間の土壌表面が白乾し始めた頃。
かん水の量は、走らせる程度。できるだけ夕方～夜間に行う。

☆【除草】 水稲、大豆

水稲作付圃場ではヒエやアゼガヤが見られ、大豆作付圃場ではアサガオ、ホソアオゲイトウ、ホオズキ類が見られます。雑草が大きくなった現時点では有効な除草剤はありません。雑草が種子をつける前に手取りで除草し、来年の発生を抑制しましょう。



アゼガヤ



帰化アサガオ類



ホソアゲイトウ



ヒロハワリンホオズキ

- 農薬の使用量、使用時期は暦を参照してください
- 農薬のラベルに記載されている有効期限及び登録内容を確認して散布しましょう
- 農薬の隣接作物、宅地への飛散を防止しましょう